

令和元年度 第1回京都市上下水道事業経営審議委員会

次 第

開催日 令和元年7月29日(月)
開催時間 午後3時30分～午後5時(終了予定)
開催場所 京都市上下水道局太秦庁舎 2階研修室

1 開 会

- (1) 京都市あいさつ
- (2) 本委員会の概要説明
- (3) 委員の紹介
- (4) 上下水道局幹部職員の紹介

2 委員長, 副委員長の選任

- (1) 委員長の選任
- (2) 副委員長の指名
- (3) 委員長あいさつ

3 進行の確認, 会議の公開について

4 京都市の水道事業・公共下水道事業の概要等について

5 議題

- (1) 令和元年度京都市上下水道事業経営評価(平成30年度事業)について
- (2) 令和元年度水に関する意識調査について

6 報告

- (1) 民間賃貸マンションへの各戸検針・各戸徴収サービスの適用について
- (2) 上下水道局の今夏の広報・PRイベントについて

7 今後の予定

8 閉 会

<配付資料>

次第

委員等名簿

配席図

資料1

京都市上下水道事業経営審議委員会設置要綱

資料2

京都市上下水道事業経営審議委員会の会議の公開に関する要領

資料3

京都市の水道事業・公共下水道事業の概要等について

資料4

(資料4-1) 令和元年度京都市上下水道事業経営評価について

(資料4-2) 令和元年度京都市上下水道事業経営評価(平成30年度事業)

(資料4-3) 令和元年度京都市上下水道事業経営評価(平成30年度事業)概要版

資料5

(資料5-1) 令和元年度水に関する意識調査について

(資料5-2) 平成30年度水に関する意識調査結果に係るクロス集計分析について

(資料5-3) 水に関する意識調査 ご協力をお願い

(資料5-4) 令和元年度水に関する意識調査 設問案

(資料5-5) 令和元年度水に関する意識調査 設問補足資料

資料6

民間賃貸マンションへの各戸検針・各戸徴収サービスの適用について

資料7

上下水道局の今夏の広報・PRイベントについて

令和元年度 第1回京都市上下水道事業経営審議委員会委員等名簿

◆ 委員

(五十音順, 敬称略)

氏名	役職等	出欠
おおoura けいこ 大浦 啓子	市民公募委員	出席
かない みさこ 金井 美佐子	京都市地域女性連合会常任委員	出席
こじま ひろなお 兒島 宏尚	京都商工会議所専務理事	欠席
にしむら ふみたけ 西村 文武	京都大学准教授 (大学院工学研究科)	欠席
ひらやま ながひさ 平山 修久	名古屋大学准教授 (減災連携研究センター)	出席
ほしお げん 星尾 玄	市民公募委員	出席
みずたに ふみとし 水谷 文俊	神戸大学教授 (大学院経営学研究科)	出席
むらかみ ゆうこ 村上 祐子	株式会社京都放送常勤監査役	出席
やまだ ようこ 山田 陽子	公認会計士・税理士	欠席

◆ 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長

〃 上下水道局次長

〃 技術長

〃 総務部長

〃 総務部お客さまサービス推進室長

〃 経営戦略室長

〃 技術監理室長

〃 水道部長

〃 下水道部担当部長

山添 洋司

鈴木 隆志

井上 高光

日下部 徹

山川 衛

糸藤 直之

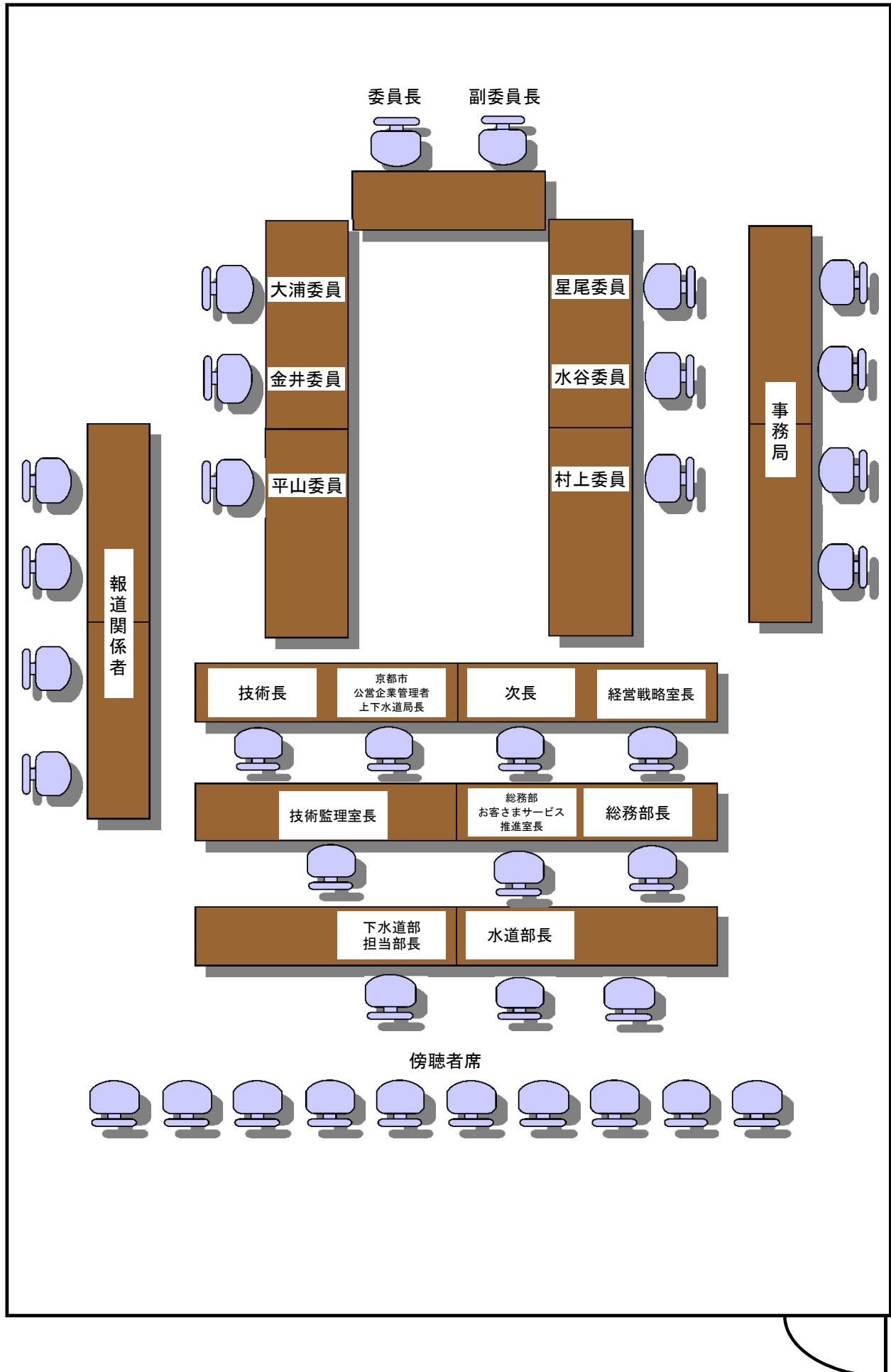
渡辺 光博

伊木 聖児

岩崎 公男

◇ 事務局 上下水道局経営戦略室

令和元年度 第1回 京都市上下水道事業経営審議委員会 配席図



京都市の水道事業・公共下水道事業の 概要等について (令和元年度の主要事業)

令和元年7月29日

京都市上下水道局

目 次

- 1 京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー…………… P 3
- 2 事業を取り巻く課題…………… P 4
- 3 令和元年度の主要事業…………… P 7

1 京(みやこ)の水ビジョン —あすをつくる—



取組の構成

基本
理念

きょう 京の水からあすをつくる



視点① 京の水をみらいへつなぐ

- 方針① つくる
- 方針② はこぶ
- 方針③ きれいにする
- 方針④ まもる
- 方針⑤ いどむ



視点② 京の水でこころをはぐくむ

- 方針① こたえる
- 方針② ゆたかにする



視点③ 京の水をささえつづける

- 方針① になら
- 方針② ささえる

4～13ページの主要事業に関連するSDGs目標を示しています。

きょう 京の水からあすをつくる



本ビジョンでは、基本理念「京の水からあすをつくる」に基づき、視点①「京の水をみらいへつなぐ」、視点②「京の水でこころをはぐくむ」、視点③「京の水をささえつづける」の3つの視点を掲げます。そして、視点に対して9つの「方針」を掲げ、これらの下、30の取組を体系的に構成します。



京都市
CITY OF KYOTO

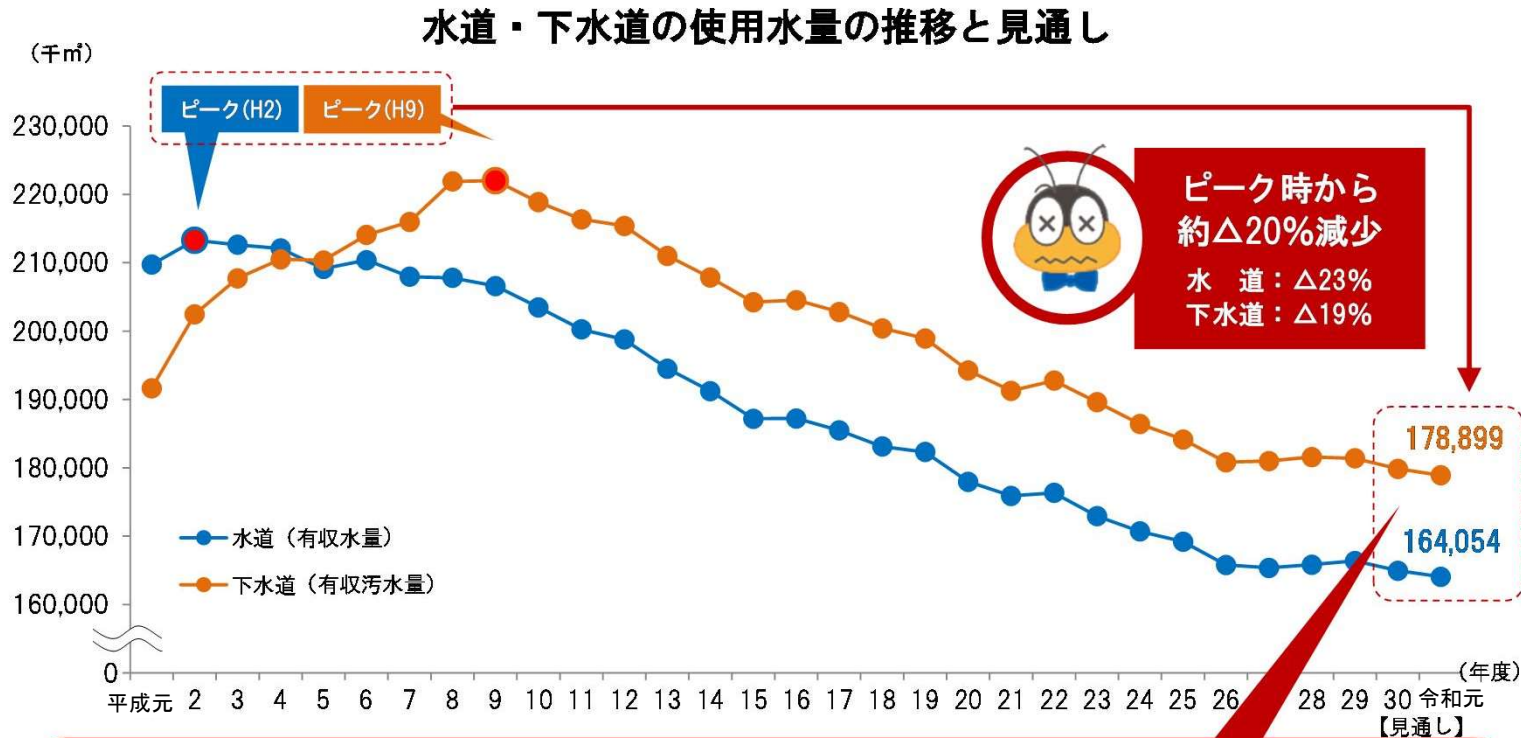
京都市はSDGsを支援しています。



2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

2 事業を取り巻く課題

1 水需要の減少（令和元年度予算）

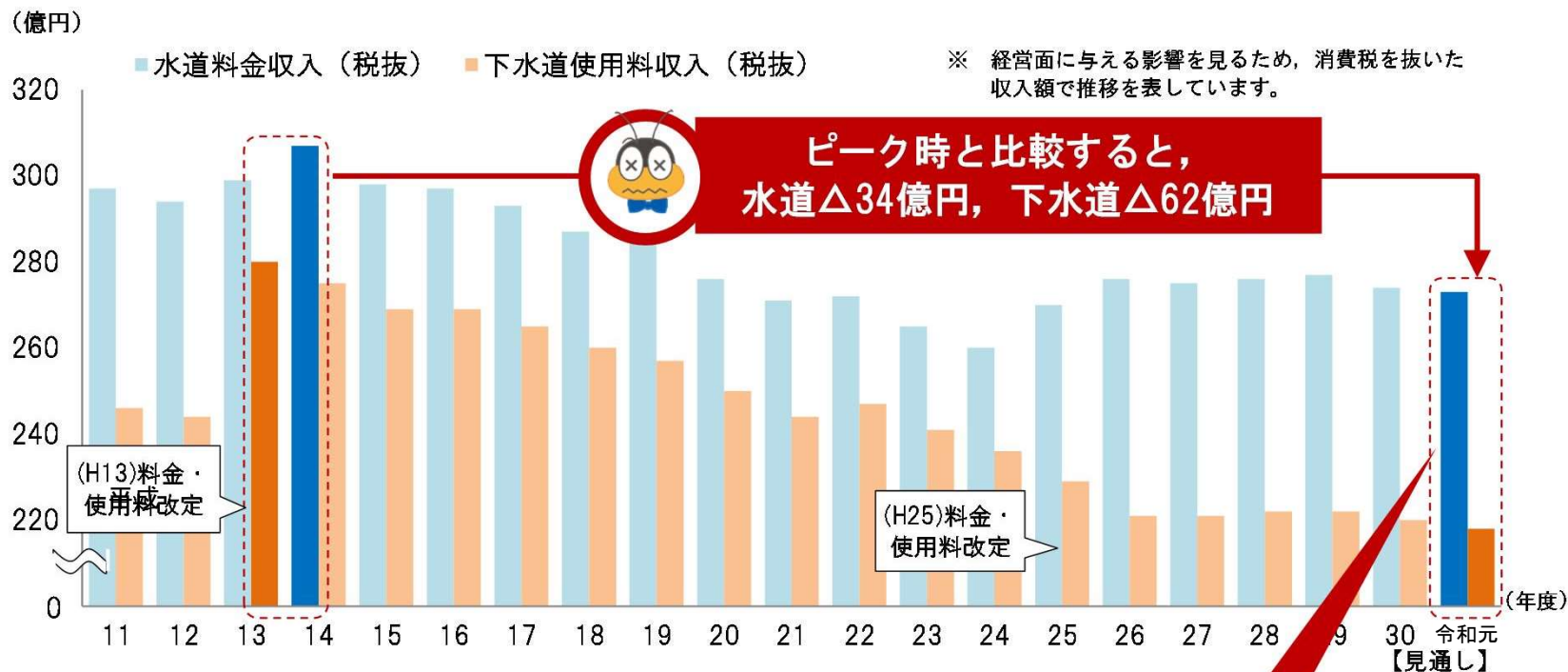


節水型社会の定着により、
前年度（H30見込）と比較すると、
水道は△0.6%，下水道は△0.5%減少

水量の増減に与える影響	水道	下水道
・ 使用者数の増加	+0.5%	+0.5%
・ 1 使用者当たり水量の減少	△1.1%	△1.0%
	△0.6%	△0.5%

2 収入の減少（令和元年度予算）

水道料金・下水道使用料収入の推移と見通し



プランにおける収入と比較すると、…

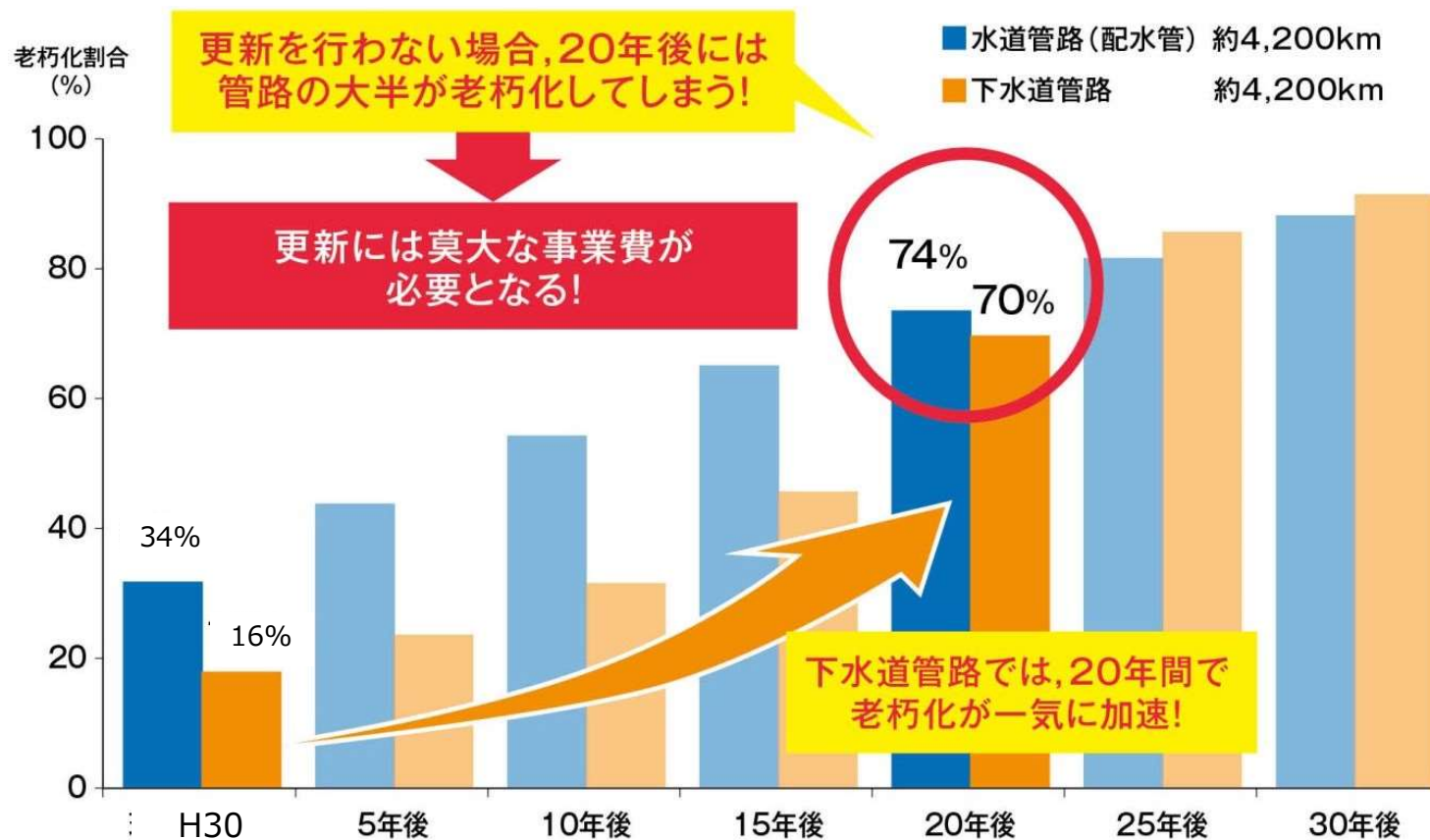
(税込の比較)

水道：（プラン）296億81百万円，（予算）296億35百万円 ⇒ **プランに対して△0.5億円の減収**

下水道：（プラン）238億89百万円，（予算）237億15百万円 ⇒ **プランに対して△1.7億円の減収**

3 施設の老朽化

水道・下水道管路の老朽化の見通し
(仮に今後更新を行わなかった場合の試算結果)



3 令和元年度の主要事業



視点① 京の水をみらいへつなぐ

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

方針① つくる

水質管理（水道），浄水場の改築更新や維持管理

【関連するSDGs目標】



3 保健



6 水・衛生

水質自動監視装置の更新・増設

予算

水道

2.2億円



水質自動監視装置の監視画面

水質の変化・異常に対して迅速に対応するため、令和元年度は、平成30年度に策定した更新・増設計画に基づき、山間地域に水質自動監視装置を設置する工事に着手します。

【主な工事計画等】

山間地域の水質自動監視装置設置及び機能増設工事の実施設計（令和元年度）
水質自動監視装置設置及び機能増設工事の実施（事業年度：令和元～2年度）

水道施設の改築更新・地震対策

予算

水道

27.5億円



配水池更新工事の様子

新山科浄水場導水トンネル及び松ヶ崎浄水場の高区1・2号配水池の更新・耐震化等に引き続き取り組み、基幹施設の改築更新・耐震化を進めます。

また、令和元年度は、新山科浄水場2系ちんでん池改良、蹴上浄水場第1最高区配水池耐震化、松ヶ崎浄水場中央監視制御設備更新等の工事に着手します。

【主な工事計画等】

新山科浄水場高区2号配水池耐震化工事の実施（事業年度：令和元～2年度）
蹴上浄水場第1最高区配水池耐震化工事の実施（事業年度：令和元～2年度）
松ヶ崎浄水場中央監視制御設備更新工事の実施（事業年度：令和元～3年度）



老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理



3 保健



6 水・衛生

水道管路の改築更新・地震対策

予算

水道

119.8億円



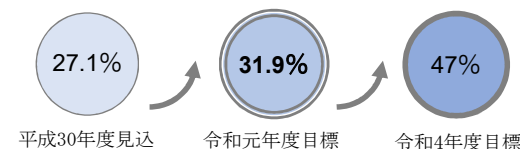
配水管工事の様子

老朽化した水道管路の更新をスピードアップするとともに、更新に合わせて耐震性・耐久性に優れる管材料を使用し、地震に強い水道管路を整備します。

令和元年度は、約56kmの水道管路の改築更新・地震対策を進めます。

また、隣接する給水区域間をつなぐ連絡幹線配水管を布設し、バックアップ機能の強化を図ります。

【中期経営プラン数値目標】老朽配水管の解消率(※)



(※)老朽配水管(昭和34～52年に布設した耐震性に劣る初期ダクタイル鋳鉄管)の平成21年度(更新事業開始年度)当初延長に対する更新済の延長の割合

下水道管路の改築更新・地震対策

予算

下水道

26.4億円

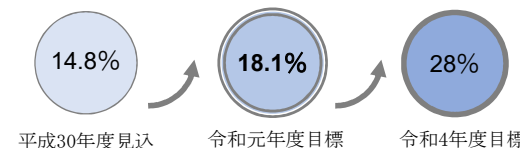


下水道管路の更生工事の様子

更生工法(長寿命化)や布設替えにより、老朽化した下水道管路の計画的な更新と重要な下水道管路の耐震化を進めます。

令和元年度は、約33kmの下水道管路の改築更新・地震対策を進めます。

【中期経営プラン数値目標】下水道管路改築・地震対策率(※)



(※)対策済管路延長÷破損等のリスクが高い旧規格の管路延長



下水をきれいにして川へ返し，市内河川や下流域の水環境を保全します

水質管理（下水）， 水環境保全センターの改築更新や維持管理



6 水・衛生



14 海洋資源

下水処理施設の改築更新・地震対策

予算

下水道

51.1億円



下水処理施設の改築工事の様子

水環境保全センターの主要な施設について，日常の点検整備に基づいた改築更新を進めるとともに，重要な施設については改築更新に合わせて耐震化を図ります。

令和元年度は，伏見水環境保全センターの分流系最初ちんでん池改築工事等に着手します。

【主な工事計画等】

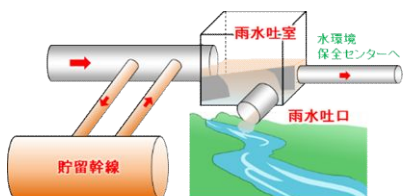
伏見水環境保全センター分流系最初ちんでん池改築工事
(事業年度：令和元～4年度)

水環境対策（合流式下水道の改善）

予算

下水道

28.7億円



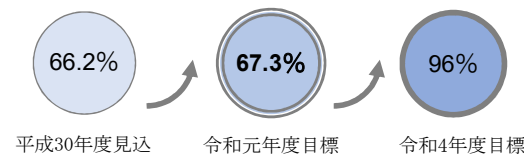
一時的に貯留する幹線を整備

合流式下水道の改善イメージ

汚水と雨水を一本の管きよで合わせて流す合流式下水道は，雨が強く降ると，汚水の混じった雨水が河川に流出することがあるため，その流出量を減らし，河川の水環境を守る対策を進めます。

令和元年度は，津知橋幹線等の整備を引き続き実施します。

【中期経営プラン数値目標】合流式下水道改善率（※）



（※）合流式下水道改善済面積
÷合流式区域面積

南部エリアの事業・防災拠点の整備に関する検討

予算

水道

下水道

2.2億円



「南北2箇所の事業・防災拠点」の実現に向けて、地下鉄十条駅西側に位置する元資器材・防災センター用地を活用して市内南部エリアの事業・防災の拠点を整備します。令和元年度は、事業手法等の検討を踏まえて、整備の具体的な手続に着手するとともに、用地の土壌汚染対策を実施します。

【事業スケジュール】

令和元年度	実施方針等の公表，事業者選定，基本設計
令和2年度	実施設計，建設工事
令和3年度	建設工事
令和4年度	竣工，開庁，維持管理開始

防災・減災のための装備等の強化

予算

水道

下水道

4.2億円



給水車



非常用発電設備

平成30年度に発生した地震や大雨，台風等を踏まえ，防災・減災のための装備等を強化します。

令和元年度は，災害発生時に飲料水を確保するための給水車や仮設給水槽の配備，災害用マンホールトイレの整備を引き続き進めるほか，大規模な停電に備え，山間地域の水道施設に非常用発電設備の整備を進めるなど，取組を充実させます。

【配備・整備計画】

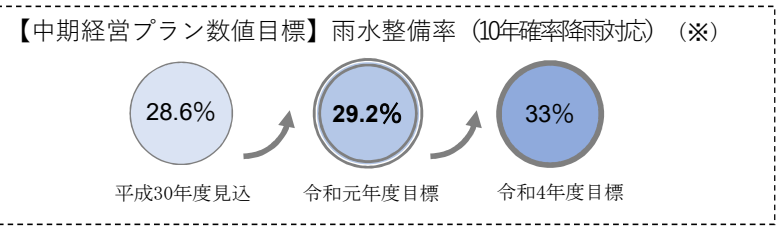
- ・水道管路管理センター南部配水管理課に給水車1台（1.5 t）を配備
- ・旧資器材・防災センターに仮設給水槽を増設
- ・災害用マンホールトイレを避難所となる小中学校等（16箇所）に整備
- ・山間地域の水道施設における非常用発電設備の整備（事業年度：平成30～令和2年度）



施工中の雨水幹線の内部（施設見学会）

「雨に強いまちづくり」を推進し、大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を進めます。

令和元年度は、伏見第3導水きょ及び山科川13-1号雨水幹線の供用を開始するとともに、西部1号・2号分流幹線の整備を引き続き実施します。



（※）10年確率降雨（1時間あたり62ミリ）に対応した浸水対策実施済面積÷公共下水道事業計画区域面積

「緊急ダイヤル」の設置による危機管理体制の強化



緊急対応の様子

平成31年4月1日から、「緊急ダイヤル」を新たに設置し、夜間（午後9時から翌日午前8時30分）における、漏水、にごり水、道路陥没などの緊急通報を、水道管路管理センターの職員が受け付けることにより、これまで以上に迅速・的確に対応します。

未来につながる調査・研究の充実

予算

水道

下水道

77百万円



水質試験（生物試験）
かび臭原因微生物
（アナベナ）



管路内調査画像

水道では、異臭を除去する性能に優れる高機能粉末活性炭について調査・研究を行います。また、ICT等の新技術についても、調査を進めます。

下水道では、画像認識（AI）を活用した管きよの劣化診断技術の調査等を行います。また、大都市と連携し全国的な課題（施設の劣化調査等）についても調査研究を行います。

これらのほか、引き続き、民間企業等と連携した共同研究についても積極的に実施します。

さらに、広域化・広域連携等の課題に関する調査・研究を行い、技術面に留まらず、経営面からも未来の上下水道に向けた取組を進めます。

広域化・広域連携におけるリーダーシップの推進



本市と同様に、近隣の市町村においても、水需要の減少や管路・施設の老朽化等が課題となる中、府内唯一の政令市かつ府内の半数以上の人口を有する最大の事業者として、リーダーシップを発揮して広域化・広域連携の検討を進めます。

令和元年度は、水道・下水道の各分野で以下の取組を実施する予定です。

水道	<ul style="list-style-type: none"> ・水道技術研修施設における他都市受入れ実施 ・京都府下市町等との合同防災訓練の実施 ・「京都水道グランドデザイン」に基づき区分された府下3圏域（北部・中部・南部（本市は南部））ごとに、府が設置する協議会において議論・検討
下水道	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道事業における広域化・共同化について、府及び府下市町村との協議を継続



視点② 京の水でこころをはぐくむ



方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

お客さまサービス、広報・広聴活動



4 教育



16 平和

水道スマートメーターの実証試験の実施

予算

水道

3百万円



山間地域を中心に、水道スマートメーター（IoT機器）を試験的に導入し、取得したデータの活用（検針困難箇所への対応、漏水の早期発見等）について効果や課題を検証します。

平成30年12月から、民間企業との共同研究により実証試験を行っています。

戦略的な広報活動（琵琶湖疏水記念館開館30周年記念事業、ミスト事業等）

予算

水道

下水道

73百万円



「いい風呂の日」街頭キャンペーン

琵琶湖疏水記念館（平成31年3月8日リニューアル）の開館30周年記念事業のほか、ミスト事業（京都駅前バスのりばでの事業拡充）や、お風呂の魅力・効能を啓発するイベントの実施など、対象や媒体（手段）を効果的に組み合わせ、体系的な広報活動を実施します。

小学生や観光客など幅広い皆さまが楽しみながら学んでいただけるよう、展示や空間を刷新しました！





方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

文化や景観、地球環境に配慮した事業運営



7 エネルギー



8 成長と雇用

琵琶湖疏水通船事業

予算

水道

34百万円



琵琶湖疏水通船事業

平成30年春から本格運航を開始した琵琶湖疏水通船事業について、令和元年度は、高い乗船率を維持するための企画等の推進、疏水の魅力を発信するガイドの育成のほか、新たな船舶（3隻目）を建造します。

本格運航初年度は、乗船率が98.3%となるなど御好評をいただきました。令和元年度は、3隻目となる新船を建造するなど、観光部局等と連携しながら疏水の魅力を更に高め、発信します！

大規模太陽光発電事業

収入予算

水道

下水道

1.5億円



鳥羽水環境保全センターの太陽光発電設備

環境に配慮した事業運営を推進するため、浄水場及び水環境保全センターに設置している大規模太陽光発電設備により、再生可能エネルギーの継続的な利用を図ることで、温室効果ガス排出量の削減に貢献するとともに、発電した電力を売却し、事業運営に活用しています。



視点③ 京の水をささえつづける



これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、
きずなを強めます

職員の育成、市民・事業者の皆さまとの連携



9イノベーション



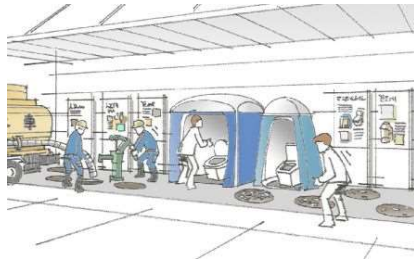
17 実施手段

技術継承に向けた体験型研修施設の整備

予算

下水道

2.3億円



下水道技術研修施設完成イメージ

今後経験豊富なベテラン職員の多くが退職していく中、技術継承と担い手の育成を図るため、鳥羽水環境保全センター内で下水道技術研修施設の整備を進めます。本施設は、市民の皆さまに下水道の仕組みを理解していただくための見学時にも活用します。

水道技術研修施設については、上下水道局職員の技術研修を実施するなど、運用を図っています。



市民向け講座の開催

予算

水道

1.3百万円



琵琶湖疏水記念館

市民の皆さまと一体となって水道・下水道を支え続けるために、市民の皆さまを対象とした講座を開催します。

令和元年度は、リニューアル後の琵琶湖疏水記念館において、疏水の歴史等に関する講座を開催する予定です。

【開催スケジュール】

琵琶湖疏水の歴史などをテーマにした講座などを6回程度開催



50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

事業の効率化など、長期的な視点に立った経営



6 水・衛生



9 イノベーション

民間活力の導入(お客さま窓口サービスコーナー、水環境保全センター水処理施設運転管理業務)

予算

水道

下水道

2.3億円



お客さま窓口サービスコーナー

上下水道局本庁舎1階のお客さま窓口サービスコーナーを民間委託化するとともに、石田水環境保全センターの運転管理業務委託において、委託内容に保守点検業務を追加することにより、更なる民間活力の導入を図ります。

【お客さま窓口サービスコーナー】

令和元年度から、電話受付時間を延長(年中無休)し、お客さまの利便性の向上に努めます。

平成30年度まで：午前8時30分～午後7時

令和元年度から：午前8時30分～午後9時

保有資産の有効活用

収入予算

水道

17.5億円



山ノ内浄水場跡地

財務体質の更なる強化に向けた取組として、保有資産の有効活用を進めます。令和元年度は、引き続き、山ノ内浄水場跡地等の貸付を実施するとともに、元営業所の跡地等の売却を実施します。

令和元年度京都市上下水道事業経営評価について

「令和元年度京都市上下水道事業経営評価（平成30年度事業）」について、平成30年度第3回及び第4回経営審議委員会での経営評価見直しに係る御意見等を踏まえて冊子案を作成しましたので、その内容についてご報告します。

1 見直しの経過

上下水道局では、平成17年度から取組項目評価と経営指標評価を柱とする「経営評価」を実施しており、これまで「京都市上下水道事業経営審議委員会」等における議論を踏まえながら改善を図ってきた。

現在の経営評価の仕組みは、外部有識者等からも評価をいただいた内容となっている一方で、一般の方向けとしては細かく難解な面があり、また冊子のページ数が多いこと等の課題があった。

そこで、経営ビジョン・中期経営プランのスタートとなる平成30年度以降の事業に適用する経営評価について、その目的である「評価結果を次の施策につなげること」及び「市民に対し分かりやすく伝えること」を更に高めるための改善を行う。

2 冊子見直しのポイント（資料4-2経営評価冊子案ご参照）

(1) 全体の構成

- ・冊子の冒頭にハイライトページを設け、主な数値目標の進捗状況をビジュアルで紹介
- ・主な構成を「第1章 上下水道事業の経営管理」（経営戦略と経営管理の仕組み）～「第2章 平成30（2018）年度の状況」（当年度の事業の状況）～「第3章 経営評価」（各取組や経営指標の評価）の3つの編成へと見直し
- ・第1章では、経営環境や、外部意見（市民アンケート、経営審議委員会）の取入れ等を含めた経営管理の仕組み（ガバナンス）について説明
- ・第2章では、中期経営プランを構成する「事業推進計画」、「経営基盤強化計画」と「数値目標」に区分し、事業と財政の両面で1年間の取組状況を説明

(2) 経営評価

- ・第3章の「取組項目評価」では、できるだけ平易で分かりやすい表現に努めるとともに、数値目標（P I）のグラフ等を多く配して視覚的にもポイントが掴みやすいよう工夫
- ・また、本市におけるSDGsの取組を踏まえ、各方針に関連するSDGsのゴール（目標）のロゴを付記
- ・プランの目標に対する5箇年全体での進捗状況の一覧表を掲載し、複数年度の評価及び今後の具体的な取組の方向性を記載

(3) その他

冊子に掲載していた「取組項目評価」や「経営指標評価」に係る詳細な説明、水道事業及び下水道事業ガイドライン指標等はオープンデータとしての活用を含めて別途データ形式で局ホームページ等に掲載し、より詳しく知りたい方に必要な情報をご覧いただけるよう対応する。

(冊子の構成等)

	従来	令和元年度（今回）
構成	第1章 経営評価の概要 第2章 経営指標評価 第3章 取組項目評価 第4章 今後の事業運営について 付属資料	冒頭にハイライトページを設定 第1章 上下水道事業の経営管理 第2章 平成30（2018）年度の状況 第3章 経営評価 第4章 今後の事業運営について
ページ数	約140ページ	約50ページ ※ 詳細な資料はデータ形式で局ホームページ等に掲載
デザイン	A4白黒（表紙のみカラー）	A4カラー

3 数値目標の達成状況及び取組項目評価

(1) 数値目標の達成状況（冊子19ページ）

	達成	未達成	対象外
事業に対する総合満足度	1		
視点①	11	1	1（※1）
視点②	6	0	0
視点③	3	0	1（※2）
合計	21	1	2

※1 浄水施設の耐震化率（令和4年度まで変動なし）

※2 下水道の大規模更新に備えた積立金（令和元年度から積立開始）

(2) 取組項目評価（冊子21～32ページ）

	A	B	C以下
視点①	12	6	0
視点②	6	0	0
視点③	6	0	0
合計	24	6	0

4 5箇年全体の進捗状況（冊子33～36ページ）

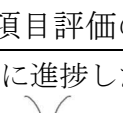
これまで5箇年全体の進捗については、3段階の評価（順調／概ね順調／遅れ）を行うとともに、しずくの絵や澄都くんの表情を配していたが、今後も同様に30の取組単位で3段階の評価を行う。

評価の基準は、取組項目評価の結果に基づき [A＝順調／BまたはC＝概ね順調／DまたはE＝遅れ] とする。また、次年度以降は複数年度の評価となることから、個々の事業の進捗を踏まえながら、プラン策定時の想定との比較から総合的に評価することとする。

さらに、「評価結果を次の施策につなげること」の更なる向上のため「今後の取組の方向性」欄に評価結果を踏まえた具体的な課題や改善点を示す。

<平成30年度事業（プラン1年目）における評価結果>

初年度のため取組項目評価の結果と同様。

	順調に進捗した 	概ね順調に進捗した 	進捗に遅れがあった 
視点①	12	6	0
視点②	6	0	0
視点③	6	0	0
合計	24	6	0

5 経営指標評価（冊子37～46ページ。他都市比較は現在取りまとめ中）

(1) 水道事業

7つの評価区分のうち2つ（⑤生産性，⑦費用）の評価区分で1ポイント以上改善し，1つ（②資産・財務）の評価区分で1ポイント以上低下した。

[1ポイント以上改善]

⑤ 生産性（105.5）

職員定数の削減により，職員1人当たりの「給水収益」，「有収水量」，「配水量」の全指標が改善

⑦ 費用（101.6）

漏水修繕経費の減少や動力費の単価減少，支払利息の減少等により，1立方メートル当たりの給水コストを示す「給水原価」が減少（改善）

[1ポイント以上低下]

② 資産・財務（98.2）

配水管更新の推進等による取得資産の増加や，企業債残高の削減により，「企業債償還元金対減価償却費比率」，「給水収益に対する企業債残高の割合」及び「自己資本構成比率」は改善したものの，翌年度（令和元年度）償還予定の企業債が前年度に比べて増加し，流動負債が増加したため「流動比率」が低下（㉘84.0%→㉙68.9%）。

(2) 公共下水道事業

1つの評価区分で1ポイント以上改善(②資産・財務)したが、1ポイント以上低下した評価区分はなかった。

[1ポイント以上改善]

② 資産・財務(101.0)

企業債償還額の増加により流動資産(現金預金)が減少し「流動比率」が低下したものの、企業債残高の削減など財務体質の強化に努めた結果、「企業債残高対事業規模比率」(㉨499.7%→㉩465.5%)を中心に他の指標が向上。

6 概要版について(資料4-3)経営評価概要版案ご参照)

概要版はこれまでA4カラー・12ページ(表紙含む)で作成していたが、市民の皆さまに手に取っていただきやすいよう、A4カラー3ツ折り・6ページで作成する。